

## 言葉の旅 スペイン語のバリエーション(9)

### アンデス諸国

1999年の夏、エクアドル(Ecuador)のキト(Quito)とペルー(Perú)のリマ(Lima)を旅行し、都市のスペイン語の様子を観察しながら、現地の人々からいろいろと教えてもらうことができました<sup>1</sup>。



【写真1】キト市郊外の市場

エクアドルの人たちと食事をしているとき、この国に特有な表現を教わりました。たとえば、「窓を開けていただけますか？」というとき、¿Me da abriendo la ventana?と仰うのです。これについては、スペインの言語学者 Antonio Quilis も現地で観察しています(かっこ«...»の中にあるのが標準的な言い方です<sup>2</sup>。

---

<sup>1</sup> 『NHK テレビス페인語会話』1999年11月号 pp.76-79.

<sup>2</sup> "Rasgos generales sobre la lengua española en el Ecuador", A. César Hernández (ed.) *Historia y presente del español de América*, Junta de Castilla y León, 1992).

Mención especial merece el uso del gerundio en toda la Sierra, prácticamente. Expresiones como *Dámelo leyendo* «léamelo», *Dame haciendo mi trabajo* «hazme mi trabajo, por favor», etc. son muy frecuentes.

「とくに言及しておくべきことは山岳地域のほぼ全域にある現在分詞の使い方である。たとえば、*Dámelo leyendo*「私にそれを読んでください」や *Dame haciendo mi trabajo*「私の仕事をしてください」のような表現がとてもよく使われている」

帰国してすぐ、共同研究で日本語の授与補助動詞について発表する機会がありました<sup>3</sup>。このとき(東京の)日本語とエクアドルのスペイン語の不思議な一致に気づきました。たとえば、*¿Me prestas este libro?*や *Te prepararé algo de beber.*を、「君はこの本を私に貸すか?」、「私は君に何か飲み物を作ろう」というように訳すのは少し変です。ふつうは「この本を貸してくれる?」や「君に何か飲み物を作ってあげよう」のように言うでしょう。このように、自分に対して使う「くれる」と他の人に対して使う「あげる」は、どちらもスペイン語にすれば **dar** 動詞に相当します。遠いエクアドルのスペイン語でも **dar** + 現在分詞が使われていることを思い出し、それが偶然の一致なのか異なる言語に共通する根源的な理由があるのか気にかかりましたが、もっと多くの資料と検証がない限り安易な推論は慎まなければなりません。

話題をペルーのスペイン語に変えましょう。以前に、所有形容詞 **su** の使われ方を調べたことがあります。たとえば **su casa** とだけ言われても誰の家のことなのかかわからないことがあります。「彼の・彼女の・彼女の・彼女たちの・あなたの・あなたがたの」「家」というようにいろいろな可能性があるからです。それをはっきり示すために「**de** + 名詞・代名詞」をつけることがいくつかの文法書に書かれています。でも本当に **su casa de Antonio** のような言い方をするのでしょうか? どうも変なので、スペインの多くの芝居のテキストをしらみつぶしに調べてみました。その結果ふつうは **la casa de Antonio** のように定冠詞が使われることがわかりました。その頻度や **su** が使われる原因などを調べて発表したところ、神戸市外国語大学の福嶋教隆さんからペルーのスペイン語について情報をいただきました。次はペルー・カトリック大学の

---

<sup>3</sup> 国立国語研究所「日本語の授与補助動詞とスペイン語の与格接語」『日本語と外国語の対照研究 VI。日本語とスペイン語(3)』くろしお出版

Rocío Caravedo の説明です<sup>4</sup>。

De modo cada vez más frecuente se encuentra la presencia de los posesivos redundantes, atribuida por lo general al español andino, si bien suele presentarse en la modalidad costeña de los grupos bajos y medios, y también en la amazónica, en relación con la tercera persona, y no necesariamente en casos susceptibles de ambigüedad: *su casa de mi mamá, celebramos su fiesta de la tierra.*

「次第によく使われるようになっているのは、3人称で、必ずしも曖昧になるときとは限らない、冗長な所有詞である。これは海岸部の低・中層や、またアマゾン地域でよく現れるものの、一般にアンデス地域のスペイン語のものとされている。例。 *su casa de mi mamá* (母の家), *celebramos su fiesta de la tierra.* (私たちは土地の祭りを催します)」

上の例の *su casa de mi mamá* (母の家) のような形は私の資料ではほとんど見つかりませんでした。しかし、いくら多くの資料を調べても、「(一般に)スペイン語では…」という言い方はできません。世界中のスペイン語を調べ尽くさない限りスペイン語一般を論じることができないからです。

---

<sup>4</sup> "Perú", M. Alvar (ed.) *Manual de dialectología hispánica. Español de América*, 1996.

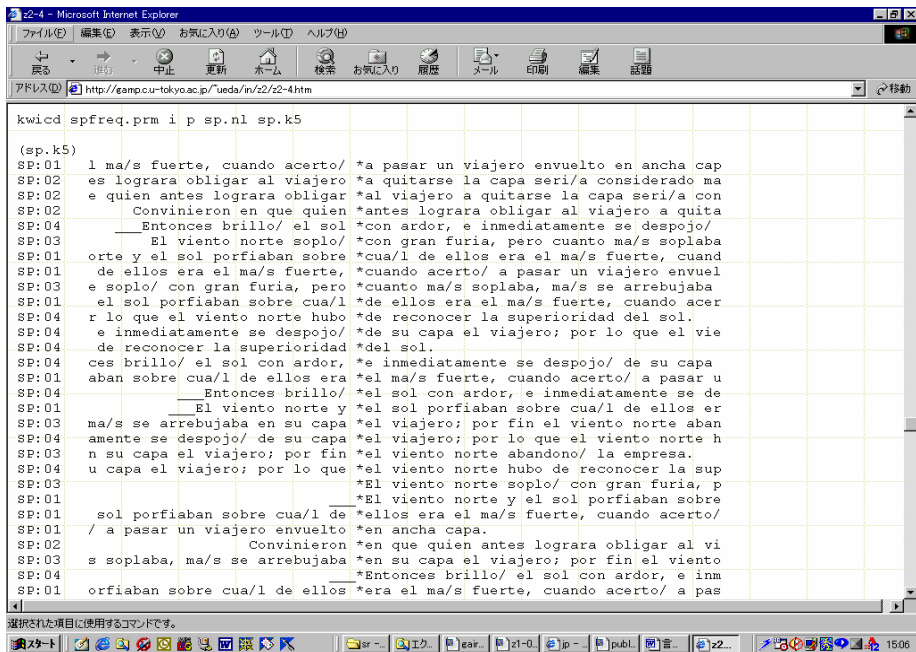


【写真2】リマのアルマス広場

さて、アンデス諸国といえば、ボリビア(Bolivia)を欠かすことはできません。私はまだボリビアのラパス市(La Paz)を訪れたことはありませんが、幸い来年(2001年)は文化人類学の研究者たちとアンデス高地のスペイン語を観察・調査する計画が実現しそうです。どんな興味深い言語現象に出会えるのか今から楽しみです。

### コーパス言語学

先に、所有形容詞の用法について「スペインの芝居の多くのテキストをしらみつぶしに調べ」と書きました。「しらみつぶし」といっても、本当にそればかり探しながら本を読むということはしません。以前は、文法や語彙のテーマが見つかり、それに焦点をあてて集中的にテキストを読みながらカードに書きこんでいたのですが、その方法ではテーマごとに大量の文献を調べなくてはならず非常に能率が悪いのです。しかも、人間がすることなのでどうしてもミス避けられません。そこで、現在ではコンピュータを活用した「コーパス言語学」の手法が使われます。コーパス(corpus)というのは言語分析の対象となる資料(テキスト)のことです。次は、そのコンピュータの出力結果の一例です。



【図】

上の図の中央にある語をキーワードにして、その前後の文脈を調べながらその法則性を探るのです。この方法(KWIC: key word in context)を使えば、一度作成した大量のテキスト・データ(データベース)が何度でも再利用でき、研究が一度きりに終わらず発展性が生まれます。また同じデータが他の研究者たちにも利用されますが、これも従来のカード方式ではできなかったことです。

### 言葉の広がり...「道路の帯状突起(ハンプ)」

『NHK テレビスペイン語会話』(1999年, 11月号)で、「(スピードを強制的に落とすための)道路の帯状突起(ハンプ hump)」をエクアドルでは **chapa muerto**「死んだ警官」ということを書きました。ここで各地のバリエーションを紹介します。



【写真3】道路の帯状突起

大きく分けて、警官に擬人化した表現と形状による比喻に分けられます。擬人化にはエクアドルの **chapa muerto** (地図では **Ch**)、スペインの **guardia acostado** 「横になった治安警官」 (**Ga**)、**guardia de asfalto** 「アスファルトの治安警官」 (**Gs**)、**guardia muerto** 「死んだ治安警官」 (**Gm**)、**guardia tumbado** 「寝そべった治安警官」 (**Gt**)、プエルトリコとコスタリカの **muerto** 「死者」 (**M**)、キューバ、ドミニカ共和国、ニカラグア、コロンビア、ベネズエラの **policía acostado** 「横になった警官」 (**Pa**)、パナマの **policía muerto** 「死んだ警官」 (**Pm**)があります。

「突起した形」を表現したものに、メキシコ・モンテレイ市 (Monterrey) の **boya** 「ブイ (浮標)」 (**By**)、プエルトリコとチリの **lomo** 「背」 (**L**)、パラグアイ、ウルグアイ、アルゼンチンの **lomo de burro** 「ロバの背」 (**Lb**)、メキシコの **tope** 「先端」 (**Tp**)、グアテマラ、ホンジュラス、エルサルバドルの **túmulo** 「墳丘・塚」 (**Tm**) などがあります。逆に、スペイン、キューバ、プエルトリコ、チリの **badén** (**B**) は元来アラビア語の「凹地」に由来します。他にもペルーとボリビアの **rompemuelles** 「(車のサスペンションの) バネ壊し」 (**Rm**) (< romper 「壊す」 + muelles 「バネ」) やパラグアイの **mataburro** 「ロバ殺し」 (< matar 「殺す」 + burro 「ロバ」) という興味深い合成語も見つかりました。世界中を調べればさらに多くのバリエーションがあることでしょう。



【地図】「道路の帯状突起(ハンブ)」

【課題-9a】Lipski (1996)を読み, Ecuador (pp. 261-271), Perú (pp. 336-349), Bolivia (pp. 204-218)のスペイン語の音韻, 文法, 語彙的特徴について, 類似点と相違点をあげなさい。

【課題-9b】Lipski (1996: 269-270)には次のような「dar + 現在分詞」の構造が挙げられている。各種の資料やインターネットによってその歴史的・地理的分布を調べなさい。

- Dame cerrando las puertas.
- Dame comprando unas espermitas.

\* 参考: Corpus del Español: <http://www.corpusdelespanol.org/>, Google など

【課題 9c】「道路の帯状突起(ハンブ)」を意味するスペイン語の語形の地域的語彙バリエーションについて調べなさい。

\* 参考: Varilex: <http://gamp.c.u-tokyo.ac.jp/~ueda/varilex/>